

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 11月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1073000174
法人名	医療法人 春香会
事業所名	グループホーム 桐の家Ⅰ・Ⅱ
所在地	群馬県みどり市大間々町桐原 634 (電話) 0277-72-0218

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町 2-29-5 コミュン100 1-B
訪問調査日	平成 19年 10月 24日

【情報提供票より】(19年10月 4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 2月 1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	9人 常勤専任 8人 常勤兼務 1人

(2) 建物概要

建物構造	(木造) 造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,680円及び57,760円	その他の経費(月額)	光熱費(一日)100円	
敷金	有()円		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400円	昼食	500円
	夕食	400円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月 4日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	1名	要介護2		8名	
要介護3	5名	要介護4		3名	
要介護5	1名	要支援2		0名	
年齢	平均 82.2歳	最低	63歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小保方医院 加孝歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

災害等への対策として、確実に2回/年消防署に依頼し署員の指導の下避難訓練・消火訓練等を実施し、夜間帯を想定しての避難訓練も行なわれている。又、防災協力員として、地域の人や利用者家族等20名が登録されており、災害時の協力体制も図られている。利用者一人ひとりが尊厳を持ち、その人らしい生活を送れる為の支援策として楽しみごと等への働きかけが多岐に渡り行なわれている。特にダンス教室及び絵手紙教室は、講師を招いて希望者を募り1回/月実施されており、利用者の張り合いや喜び・気晴らし等、精神的な安定を図る機会としても活かされている。これらは評価に値するものであり、今後も継続されることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>・介護計画の見直し=適切な見直し時期を検討した上明示して欲しい(前回評価)⇒約6ヶ月毎の見直しを行い心身状況に応じた随時見直しを行なっている。定期的なモニタリング・見直し及び随時見直しが適切に行なわれているとは言えない。 ・職員の穏やかな態度=認知症ケアにふさわしくない言葉・語調が聞かれた(前回評価)⇒人生の先輩として尊敬の念を持った言葉掛けを心がけている。しかし言葉の一部には「尊厳の保持」とは言い難い部分が聞かれた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、職員に回覧し項目の確認は行なったが、記載等については、責任者及び管理者により確認を行いながらまとめられた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は定期的(1回/2ヶ月)開催されており、サービスの実施や行事等の報告を行っている。又、委員より出された意見については、今後のサービス向上に生かすようにしている。評価の取り組み状況等についての報告は未だ行なわれていない為、今後は議題として組み込んでいく事がより望ましい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情受付担当者の案内がホール内に掲示してあり「御意見箱」が設置されている。家族からは面会時に意見・要望等を聞くと共に1回/年(12月に実施)家族にアンケート用紙を送付し意見を聞き、出された事柄についてはケア会議等で確認・検討を行ない運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの庭が広い為、育成会で行なうお祭りの休憩場所や保育園児が散歩の途中で休憩する等での交流の機会がある。又、地域の小学校の運動会やお祭りを見学する等の交流も行なわれている。今後は日常的に交流を図っていく為に自治会や老人会等にも働きかけ、地域活動に積極的に参加できるように取り組んで行ってほしい。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしい生活の実現に向け「のんびり ゆったり その人らしく ・穏やかに安らぎのある暮らし…」等々を理念として掲げ、地域の中でその人らしく暮らし続けられるよう、ホーム独自の理念が掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常的にはミーティング時等、1回／月開催のケア会議で理念を実践できるように話し合い確認を行っている。又、ホール内の壁に大きく書かれた理念が掲示されており、管理者・職員間で共有し、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	広い庭があり、育成会のお祭りや保育園児が散歩の途中に休憩所として活用され、交流の機会となっている。又、地域のお祭り・近隣の小学校の運動会を見学する等で交流の機会が図れるよう努めている。	○	代表者は地域の行事に参加し、ホームのPR等を行なっているが、自治会や老人会等に働きかけ、地域活動の参加等に取り組んで行きたいとの事。ホームが地域の一員として、積極的に地域の活動に参加し、日常的な交流の機会を深める事を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解しており、自己評価については全職員に回覧し、確認が行われている。又、評価結果での改善点等については、職員が共により良いサービス提供が出来るよう話し合いを行い改善策への取り組みが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回／2ヶ月開催しており、サービスの実施報告等を行っている。又、各委員から出された意見は、今後のサービスの質の向上に活かすように努めている。		委員の意見を聞き、サービスの向上への取り組みや実施報告等は行なわれているが、評価の取り組み状況等についての確認も行なう事がより望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	1回/月市より委託された介護相談員が来訪し、利用者と直接話をした後に介護相談員から意見を聞き、サービスの向上や個々の要望を叶えるように努めている。又、市の介護高齢課の担当者とも随時連絡を取り合い、市との連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	4回/年法人全体の情報誌を発行し、行事等を掲載して家族等に発送している。又、レクリエーションや行事の作品や写真をホーム内に貼り、面会時に見ていただくようにしている。健康状態の変化についての報告は随時行なっているが、日常の様子は面会時のみの報告で定期的には行なわれていない。	○	法人全体の季刊情報誌の発行により、全体の行事等の様子は伝達できるが、個別に暮らしぶり・生活の様子を家族等へ報告し、家族との連携や安心感等の観点から、定期的な報告の実施を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1回/年(12月)には家族アンケートを実施。アンケート用紙を郵送し意見・要望を聞く等の取り組みが行なわれている。又、苦情受付担当者が明記されており、苦情があった場合は職員間で検討し、早急に改善を行なう等で運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージ等を考慮し、法人内での異動や交替等は行なわないよう最小限に努めている。ここ数年は職員の異動は無く、管理者についてもホーム開設当初より在籍している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修(認知症について・救急救命法等)を開催している。外部研修については、グループホーム連絡協議会に加入しており、研修会等に参加している。受講者は報告書を提出し、ケア会議等で報告を行い他の職員との共有が図られている。又、職員には資格取得を促している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内のグループホーム間での合同レクリエーション・夏祭り等を実施し、利用者及び職員同士の交流を深めている。又、グループホーム連絡協議会に加入しており、職員のレベルアップ研修等の参加を通して交流を図り、質の向上への取り組みが行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者でデイサービスやショートステイを利用しながら、徐々に慣れていただき入居となった人が過去にいた経緯がある。今後もできるだけ直接見学し、納得した上での入居となるよう、又、家族や介護支援専門員との連携を図り、利用者が安心できるよう心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で各自の力量を最大限に活かせるよう、簡単な調理・居室の掃除・庭の手入れ等、職員と共にやっている。又、レクリエーションや行事でも昔からの歌や風習等、利用者から学ぶことも多く、支え合いの関係が構築されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活歴や家族からの聞き取りで意向の把握を行っている。又、利用者の会話や行動等の中から確認し、アセスメント表の活用により、利用者本位に向けての検討を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者各自の日常生活の中から好む方法を汲み取り、家族からは面会時に意向等の確認を行い、個々にどのようなケアが一番良いかを職員間で話し合いの上、利用者に即した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	約6ヶ月毎に見直しを行い、心身の状況がかなり変化した場合は、必要な関係者と相談し、見直しを行なうようにしている。しかし、定期的なモニタリング及び随時の見直し等が行なわれた介護計画の確認が示されなかった。	○	状態変化に応じた随時の見直しは勿論の事、計画に基づいた統一的ケアに対し、家族等との確認の意味も含め定期的なモニタリング及び介護計画の見直しが必要。又、現状に即した計画を作成していく観点から、モニタリング・評価に基づき定期的(1回/3ヶ月)程度の見直しを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期入所・通所介護等が状況に応じて利用できるよう支援しており、過去に利用者がいたが現時点での利用はない。契約により「医療連携体制加算」及び「指定介護予防認知症対応型共同生活介護」等、指定を受け多機能性を活かした支援体制が整えられている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にホーム協力医について説明を行い同意を得ている。利用者全員が協力医療機関の医師による1回／週の往診及び訪問看護4回／週が行われている。又、希望する医療機関への受診等も出来るよう職員による支援が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医・訪問看護ステーション・等を含めた関係者の共通認識により、家族・利用者の意向確認を行い重度化に向けての取り組みが行なわれている。最近家族の意向によりホームで終末期を過ごした事例があり「重度化したときの治療方針」等、終末期に向けての具体的なマニュアルがある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の尊厳やプライバシーに配慮し、人生の先輩として尊敬の念を持った言葉掛けや対応を心がけている。ホール内の壁には個人情報に関する基本方針及びグループホームの倫理綱領が掲示され、プライバシー保護等へ向けて取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの過ごし方や日々の生活の中から、又、家族に今迄の暮らしぶり等の確認を行い、各自のペースを保ちながら過ごせるような生活支援に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に応じて、食事づくりから後片付けまで一連の動作を職員と一緒にこなしている。メニューは、管理栄養士がカロリー計算に基づいて作成しており、嗜好等については代替品の提供を行なっている。又、食事は職員が各テーブルに同席し、会話を楽しみながらの支援が行われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2ユニットでユニット毎に基本的には3回/週午後に入浴を実施しているが、入浴日以外でも希望があれば他のユニットでの入浴も可能となっており、希望を聞きながらの個別による入浴支援が行なわれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の性格・特技等を把握し、家事(掃除・洗濯物たたみ等)や趣味(貼り絵・歌等)を日常的に行えるよう支援している。又、定期的(1回/月)講師を依頼してのダンス教室や絵手紙教室を開催する等、楽しみごとへの支援も行なわれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は近隣を散歩したり、庭の花や野菜の手入れを行ったり、玄関前での外気浴等が日常的に行なわれている。又、関連施設へ行く際はドライブを兼ねて一緒に出かける等の外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることへの弊害を理解しており、居室には鍵はなく、日中は玄関に施錠しないケアの実践に取り組んでいる。但、階段のあるドアについては、危険回避のための施錠を行なっているが、通常はエレベーターを活用している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年2回/年(今年度=6月・11月)消防署の指導にて避難訓練(夜間想定を含め)・消火訓練を実施しており、マニュアル及び実施記録等がある。又、家族や地域住民から防災協力委員(20名)を募り、非常時の協力体制が図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成しており、食事形態の工夫や嗜好への代替品の提供等、栄養バランスへの工夫がなされている。又、食事チェック表・水分チェック表の活用により、個々の健康面等を考慮した支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼ホールが南に面し自然の採光があり、窓からは隣家の木に咲く花や紅葉等の観賞ができ季節感を味わっている。手づくりの日めくりカレンダーは利用者が交換し、ホール・廊下には季節に応じた手作り品や絵手紙等の装飾が活用されていて、居心地よく過ごせるような工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にベット・箆箆・エアコンが設置してあり、それ以外は慣れ親しんだ物品を持参して頂くよう家族に働きかけている。居室には賞状・仏壇・写真等が持ち込まれおり、自作品が飾られ、安心して過ごせるような配慮がなされていた。		